The Principal Report

TK通信(2月号)

February/29/2024/ VOL 019

「道」よりも「徳」

「道徳」という教科を義務教育で履修します。小学校、中学校と道徳の時間が好きで、さまざまなテーマでクラスメイトと意見を出し合い、答えのない問いに対して、ものごとをいろいろな視点から考える上では、とっても面白かったという思い出があります。

そもそも、道徳という言葉には「道」と「徳」があり、それぞれ異なる意味を持っています。「道」とは、「立場の弱い人を助けよう」「電車では身体が不自由な方に席を譲ろう」「横入りせずに順番を守ろう」など、人が守るべきルールを意味しています。その一方で、「徳」というのは、そうしたルールを守ることができる状態のことを指しており、どちらかといえば、「こうありたい」「こうなりたい」といった人間のあるべき姿を示しています。

日本人は道徳教育を受けており、「民度の高い国民」といった表現をされることがあります。何をもって民度が高いとするかは謎なところですが、大規模な災害が起きた際に、略奪行為などが起こらないだとか、コンビニのレジがどれほど混んでいようとも、誰もが整列して順番を待っていたり、サッカーの国際試合等では、試合後に会場を清掃活動することが恒例となっているなど、他国に比べて規律正しく、真面目で誠実な印象が強いのではないかと思います。これらはルールを守るという点で「道」への意識がとても強いということが表れている結果ということになります。

しかしその一方で、「徳」はどうでしょうか。所得格差の拡大が止まらない日本で、大金を手にする経営者たちが積極的に社会に寄付するということは、他国に比べて圧倒的に少ないと言われています。政治家たちは自分達の立場を守るために、事実を隠し、自分を選んでくれた国民に対しても平気で嘘をつくということもあります。また、昨今、一部週刊誌の報道でスキャンダルが発覚した有名人や芸能人を、何も関係のない第3者が、SNSで匿名であることをいいことに誹謗中傷を繰り返し、まるで犯罪者のように追い詰めていきます。こうした現状を考えたとき、日本人は「道」は浸透していても、「徳」をもっと磨く必要があるのではないかと感じます。

特に、これからの時代、決められたルールに対し、周囲がそうしているから、これまでがそうだったからという理由で、何も疑わずに従うことは大きなリスクがあります。VUCA(誰も経験したことのない、予測不能な時代)において、これまでの当たり前は、これからの非常識となる可能性だって十分あるのです。常識を疑い、ときには立ち止まり、「本当にそうなのかな?」「なんでそうなんだろう?」と思考することが重要となります。

その上で、自分が他者に対してどうありたいのか、どうなりたいのか、どうしたいのかを、自分軸で判断し、行動を決めていくことが求められます。これがいわゆる主体性と言われるものです。ルールだから行動するのではなく、自分軸で判断し意思決定したものが、自分の行動を決めていくのです。どうしたら社会に対して役に立てるのか、どうしたら他者のために力になれるのか、どうしたら誰かの困りごとを解決できるようになるのかが自分の判断軸として持たなくてはなりません。それがいわゆる「徳」だとか「利他」といわれるものであり、自然と、自分の意識は社会に向かっていきます。

日本人に足りないものは、ルールではないのです。ルールを守ることは大切なことで、必要なことです。しかし、ルールよりももっと大切なものがあります。それは「優しさ」という言葉に集約されるのかもしれません。正しさよりも優しさ。私の生きる道標です。

学校視察へGOGOGO!!

1月から御殿場西高校の先生方が他県の学校を視察しに飛び回っています。全国には面白い学校がたくさんあります。面白い学校には、面白い先生がたくさんいます。そんな先生方と出会うために、この2ヶ月間、多くの場所に行っています。

- ・茨城県大子町立南中学校 学校DX/ICT活用
- ・横浜創英中学校高等学校 カリキュラム、自由進度学習、主体性と自律
- ・新渡戸文化学園中学校校高等学校 居場所づくり、探究学習
- ・ドルトン東京学園中等部 STEAM教育、探究学習、生徒主体の学校運営
- ・ 札幌新陽高等学校 多様性、学習する学校、対話型組織

どれも素晴らしい学校で、全国的にも注目される学校ばかりです。共通しているのは、生徒も先生方もキラキラしています!学校が楽しい、学びが楽しいといった雰囲気が溢れていること、そして生徒たちの居場所や出番がたくさんあるということが共通しています。本校の先生方にとってもいい学びの機会になり、大きな刺激をいただく研修となりました。御殿場西高校が目指す「居場所と出番を創り続ける学校」につなげていきます。



KIC留学はどんな感じ?

KICに留学中の5名の様子が送られてきました。とっても充実した時間を過ごしているようです。留学開始から早くも1ヶ月が経過し、それぞれ期待していた学びや経験をすると同時に、言語や文化の壁とも直面している時期になります。この両面を経験することこそ、留学経験において最も価値のある学びだと思います。いいことも、悪いことも、両方を経験するから見えてくる世界があります。焦らず少しずつ前に進み、強くなってほしいと思います。何より、留学先でしかできない出会いを大切にして、一生付き合えるような素敵な仲間を作ってもらいたいです。



オススメ『スマホ脳』

みんな大好きスマートフォン。使わない日はないというほど、私たちの生活の一部となっており、むしろ自分の身体の一部と言っても過言ではありません。しかし、スマホが我々に多くの情報やエンターテイメントを提供してくれる一方で、それ以上に、我々から物理的にも心理的にも奪っていることが多くあります。作者のアンデシュ・ハンセン氏は、著書の中で「アップルの創業者スティーブ・ジョブズは世の中

にiPadの素晴らしさを説きましたが、自分の子供にはiPadに触る時間を厳しく制限し、しかもそのことを黙っていました。」と語っています。スマホに依存している自分を客観的に見ることができるようになることの重要性についても述べられています。生徒も教員も保護者も必読の一冊ではないかと思います。もちろん私も読みました!



保護者の皆様へ

いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。能登半島沖地震からスタートした今年も2ヶ月が経過しました。被災地の状況が連日のようjに報道されていますが、我々も決して人事ではありません。いつか確実にやってくる震災、富士山噴火に対し、本校の防災対策も見直していかなくてはならないと感じています。

3年生の保護者の皆様、いよいよ卒業となります。今年はアフターコロナの 1年となりましたが、マスクの着用も義務づけがなくなり、お互いの表情をよ うやくオープンにできた1年間でした。照れ臭さや、抵抗もありましたが、や はり、生徒たちのマスクのない笑顔や、時として真剣な表情が素敵だなと改め て感じました。学校の枠がなくなり、これからはより自由で責任が伴う人生が 待っています。自分らしく、御殿場西高校の卒業生らしく、明るく元気で前向 きな大人になってもらいたいと心から願っております。

